

平成26年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産部門

夫婦二人三脚による省力化・高収量・高品質を実現した大規模麦作経営

○氏名又は名称 小野田 裕二・小野田 倫恵

○所在地 愛知県西尾市

○出品財 経営（麦）

○受賞理由

・地域の概要

西尾市は、西三河平野の南部に位置し、温暖で適度な降水があることから、県内水田作の主要な産地となっている。地域では、自動車関連企業の誘致等により、農家数の減少や兼業化が急速に進行したことから、受託組織の発展と農地の集約が進み、これら受託者を中心とした担い手が地域の水田農業を担ってきた。また、同地域の水田農業では、ブロックローテーションによる集団転作が実施されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

小野田夫妻は、平成10年にUターン就農後、麦、大豆を中心に規模拡大を図っていく中、ほ場の大区画化や農地の団地的利用を通じた作業の効率化、機械の改良や作業方法の改善による労働時間の短縮に取組み、基幹的オペレータ2～3名という体制で小麦、水稲、大豆合わせて延べ159haを耕作するとともに、土地利用としても2年3作による水田の高度利用を実現している。また、家族経営協定により、お互いの役割分担と能力の発揮をはかりながら、重要な経営判断は協議した上で決定している。

・受賞者の特色

(1) 高い労働生産性を実現した大規模経営

延べ159haの作付面積を効率的に作業するため、可能な限り、ほ場の集約化を図るとともに、耕起・施肥・播種同時作業機や無人ヘリの導入、水稲直播栽培の導入など、様々な省力化に資する取組を積極的に行っており、水稲と小麦は県平均の約4割の労働時間を実現している。

特に、麦作では、収量性の高い小麦品種の採用、適期作業の実施、排水対策の徹底というように集中的に改善を図ってきた結果、52.4haの栽培で平均収量が県平均の約1.5倍の605kg/10aを実現した。

(2) 新品種・新技術の積極的導入

コスト低減に資する技術実証試験を担い手仲間と取組むほか、愛知県の食文化を代表する「きしめん」や「味噌煮込みうどん」への利用が期待されている小麦新品種「きぬあかり」をいち早く導入するなど、積極的に新品種・新技術の導入や栽培技術の改善に取組み、技術力の向上に向けて研鑽を重ねている。

・普及性と今後の発展方向

今後の水田作農家が進むべき方向の一つである、大規模化と飛躍的な労働生産性向上を実現しており、攻めの農業を先取りした高効率で高収益な大規模水田作経営の一つのモデルとして、地域の模範となる経営である。

今後も生産性の向上に向けた改善を追求していく意向であり、さらに、小麦新品種「きぬあかり」を通じた地域興しや地域の雇用の受け皿になるといった意欲も示しており、地域の農業をリードする若き担い手として今後の活躍が期待できる。